平成 28 年度東広島市教育委員会主催・広島大学マスターズ共催市民講座「現代社会の人間関係の諸相」実施報告

広島大学マスターズ会員　黒川正流

コーディネーター：黒川正流

広島大と広島国際大の気鋭の現役社会心理学研究者たちにお願いして，up-to-date な人間関係の一端をわかりやすく話してもらった。

第 1 回「地位と勢力；権力は人をどのように変えるのか」

2016 年 4 月 16 日（土）午後 1 時 30 分～3 時
於： 市民文化センター第一研修室，受講者数 25 名
講師：坂田桐子（広島大学総合科学研究科教授）
講義概要: 勢力とは『価値ある資源を統制できる力』である。勢力を持つと，人は社会的規範に縛られず，自身の内的状態及び特性に従って行動するようになることが様々な実証研究によって明らかにされている。そのため，もともと利己的な人が勢力を持つと，身勝手で配慮に欠ける行動が促進され，いわゆる『勢力の堕落』と呼ばれる状態になる。一方，地位の源は『尊敬されること』であり，基本的に他者の評価によって決まるものであるため，高い地位を得た人は，他者からの尊敬を失わないよう，他者や集団のために振舞うようになる。道徳的でない行為を最も生じやすいのは，『地位の低い（＝尊敬されない）勢力者』である。これらの社会心理学的知見から，能力だけを見てリーダーを選ぶのは危険であること，暴君を生み出すのも阻止するのもメンバーであることを述べた。最後に，現代社会の権力を巡る様々な問題について，受講者と有意義な議論を行うことができた。

第 2 回「子育てにおける養育者と周囲との対人関係：『つながり』から考える子育て」

2016 年 4 月 23 日（土）午後 1 時 30 分～3 時
於：市民文化センター第二研修室，受講者数 12 名
講師：西村太志（広島国際大学心理学部准教授）
講義概要: 子育てをしやすい環境とはどのようなものであろうか。また，

地域や社会での地社の子育ての必要性が近年指摘されているが，地域社会において「子育て」が当たり前のものになるために必要な条件は何であろうか。子育てにまつわる対人関係の視点から，この問題について考えてみる。

最初に，社会心理学の諸理論の中で「子育て」の対人関係に関連すると考えられるものをいくつか紹介した。特に周囲の他者や社会をサポート源としていかに活用するかという観点から説明を行った。

その後，講師の研究知見を二つほど紹介した。対人的なつながりの豊かさが，子育てにおける不適切な養育態度を抑制することと，社会における対人関係の変化可能性（関係流動性）が高いことが，子育てにおいて周囲の人々との関係を重視することを示した。

最後に，子育て支援に関する最近の社会の動きと今後の展望をいくつかお話した。子育てを地域社会で支えるのは，そこにすむ全ての人たちという視点で，社会全体で子育てが進むことが，我々の豊かな対人関係にもつながることを願っています。そのための一助に本講座が寄与すれば幸いです。

第３回「なぜ親密な人間関係で暴力がエスカレートするのか；DV が生じる心理的プロセス」

2016 年 5 月 7 日（土）午後 1 時 30 分～3 時

於：市民文化センター第二研修室，受講者数 21 名

講師：相馬敏彦（広島大学社会科学研究科准教授）

講義概要；本講義では，なぜ恋人や配偶者といった親密な関係において暴力が生じ，エスカレートしやすいのかという問題について，DV についての現状を確認した上で，いくつかの研究知見に基づき説明がなされた。第一に，親密な関係のもつポジティ ブなはたらきに潜む「かけがえのなさ」について論証し，その逆機能としての被害脆弱性に関するプロセスが論じられた。第二に，加害者特性としての攻撃性の機能が，どのような場合に現れるのかが説明された。第三に，DV は「二人の問 題」かという視点から，コミュニティー・データにみる DV の生じやすい地域・生じにくい地域について論じられた。最後に，DV 当事者にならないためには風通し のよい関係を作ることの重要であり，第三者として社会全体での DV 被害を減らす ためには部外者ならではのサポートが必要であることが述べられた。

質疑では，地域コミュニティの弱体化や男女の違い，DV についての社会施策など多様かつ現実的な視点から広く議論が交わされた。

第４回「お金や地位を得ることで失うもの；社会経済的地位と対人関係」

2016 年 5 月 14 日（土）午後 1 時 30 分～3 時

於：市民文化センター第二研修室，受講者数 23 名

講師：中島健一郎（広島大学教育学研究科准教授）

講義概要；社会経済的地位(Socioeconomic status; SES)とは「豊かさ」についての総合的な指標である。「地位がないよりはある方がよい」と思いがちだが，果たしてそうであろうか。この講座では，社会経済的地位が高くなるにつれて失いがちなものについて紹介した。

ひとつは，他者への信頼感や向社会的行動である。SES が高い人々は，誰と対人関係を築くのかを選ぶ傾向にある。一方で SES が低い人々は，生活していくために周囲の人々との協調的な関係を築こうとする。ひとりでは生きていけないと考えているためである。それゆえに，SES が低い人はまず周囲の人々全般を信頼しようとし，さらにその人々のためになるような行動を示そうとする。

もうひとつは，共感の正確性です。SES が低い人々は，周囲の人々がどのような状況にあるのか，そこで何を感じているのか考え，行動する傾向にある。対人関係を維持するために必要だからである。結果として，SES が低い人々は他者の気持ちを正確に把握することができるようになります。

日本文化の特徴である「察しと思いやり」は，実は社会経済的地位の低い人々が持つ「素晴らしさ」でもあるのです。

「全体」

ゴールデンウイークを挟んだ期間であったので，出席状況に若干の影響があったものと考えられるが，出席者は熱心に受講し，講義終了後の質疑討論が活発に行われた。